第8回伊予市図書館、文化ホール等管理運営検討委員会 会議概要（無記名版）

日 時：平成29年1月25日（水） 14時00分～16時00分

場 所：伊予市生涯研修センター「さざなみ館」 第1研修室

出席者：検討委員11名、事務局6名、委託業者2名

1. 開会

- ・ 開会のあいさつ（事務局）
- ・ 委員長あいさつ（委員長）

2. 議事

(1) 管理運営実施計画について

- ・ 委託業者よりご説明
- ・ 前回、皆さんに様々なご指摘をいただき、細かく検証しながら反映する作業を行ったため、今回の会議資料の事前配布が通常より遅くなってしまった。前回からの修正点を中心に説明いただいたが、項目順に従って皆さんのご意見をいただきたい。（委員長）
- ・ 今回の計画案は伊予市が作成したこととなっている。本来、伊予市図書館、文化ホール等管理運営検討委員会が作成した案とすべきではないか。（委員5）
- ご指摘の表紙における表記について、今回お配りしている資料では管理運営計画書の完成版を想定して伊予市が策定した形になっている。现阶段ではあくまで管理運営検討委員会の案だが、最終的には伊予市が作成、策定したものとなる。（委員長）
- 最終的に、皆さんからいただいたご意見を基に伊予市として策定する。（事務局）
- では、策定以前の表紙の署名は管理運営検討委員会に直すということでよいか。（委員5）
- 策定以前はそのようにしたい。最終的には市が責任を持つが、意見の主体は管理運営検討委員会である。（委員長）
- ・ 基本計画への手戻りがないう、確認を進めていきたい。引き続きご意見をいただきたい。（委員長）
- ・ 体裁として、「Ⅳ 広報宣伝計画」と「Ⅵ 危機管理・安全対策」の項の下に1項目しかなく、通し番として（1）を振るのは違和感がある。項目の通し番を削除するか、2項目を作るか考えていただきたい。同様に、「Ⅲ 組織計画」の「3 運営体制」の下項目も「（1）施設全体の運営体制」のみとなっている。同様の項目が他にもあるので再考していただきたい。（委員6）
- ご指摘の点以外にも、今回項目を追加した部分がある。同様のご指摘を複数いただいているので、一旦預かり、調整させていただきたい。（事務局）
- 法律の条文などには、項目として（1）だけが存在し、（2）以降がない場合もある。

よりわかりやすい表現に統一したいが、委員長の見解としては、現在の項目の考え方のまま進めたい。(委員長)

- ・ 実施計画はいつの時点で公表されるのか確認したい。我々は昨年度から検討を重ねてきたが、先ほどの説明では、最終的に市が作成したことになるとのことだった。最終的な判断と責任の所在が市にあるとしても、本計画は検討委員会で2年の長きにわたり検討されたことについて、市民に周知する必要がある。(委員5)
- 仰る通り、最終的に「策定」するのは市だが、これまでに皆さんが熱心に議論されてきたことは、本計画策定後に広報を行う際に積極的に告知していく必要があると考えている。(委員長)
- 同じ委員としては、過去の議事録も細かくホームページで公表されており、その時点で委員会において検討が行われていることが公になっていると認識している。(委員9)
- ありがとうございます。なおかつ、策定後に市ホームページ等で公表される際に、委員会でみなさんに熱心に検討していただいたことも付記したうえで公表していただきたい。(委員長)
- 市民全員がインターネットを活用しているとは限らないため、市の広報紙等の媒体でも公表されるべきである。(委員5)
- 広報紙への掲載等も事務局でご検討いただきたい。(委員長)
- ご指摘の通り、匿名の議事録についてはインターネット上で公開されているが、以前より広報が行き届いていない点についてはご指摘を受けていた。具体的な方法については検討させていただきたい。(事務局)
- ・ 議論に入る前に重要なお指摘をいただいた。続いて、本計画について皆さんの意向が反映されているかどうか、確認したい。(委員長)
- 以前の基本計画を踏襲するのはよいが、基本理念は施設の建設にかかるものと理解している。この部分は本来ソフトに合わせた内容にすべきではないか。四つのミッションとして、より具体的に明確にすべきではないか。今回の計画書は施設を建てることを目的としていない。人を育てるとか、地域を元気にするということが目的で、そういったミッションを言葉として入れないと、抽象的な印象を受ける。その部分の議論を尽くしたと思うので、反映させてほしい。(委員2)
- ありがとうございます。冒頭に盛り込むというよりは、今後の課題かと思う。非常に難しい部分であり、ご指摘の通りである。事業計画に関連する部分のご指摘かと思うが、事業計画自体は計12ページにわたっており、非常に長い。「はじめに」の部分と一緒に構わないので、ご意見をいただきたい。前回の委員会で、「ミッション」や「アーカイブ」といった文言を日本語にしてほしいという強い意見もあり、本文は日本語に置き換えている。ほかに置き換える語がない場合には注釈をつけていきたいと考えている。(委員長)
- ・ 事業計画に関して、用語について指摘したい。「貸館も事業としてとらえる」ことから、

「施設提供事業」という言葉の方が良いのではないか。また、「施設提供事業」の方が、より利用者側に主体があるようにも読み取ることができる。誰が主体かという点で考えて、言葉の使い方を変えていただいた方がよいかもしれない。(委員2)

- ありがとうございます。ご指摘も非常に重要なことだが、この20年ほど使われ続けてきた言葉をそのまま踏襲した方がわかりやすいという指摘がある一方、まだ定着はしていないが新しい概念で、いまご指摘いただいたような市民目線の言葉を使った方がよいという要望もあった。参考までにシアターワークショップに過去に貸館に関してどのような文言を使用されてきたかお尋ねしたい。(委員長)
- 「施設提供」という文言を使用した例は多くはない。他市でも同様の要望を受けてご提案したが、その際にもわかりにくいという指摘はあった。(伊東)
- ありがとうございます。今後の検討課題にさせていただきたい。(委員長)
- 複合施設では様々な活動が行われている。図書館等の施設に様々な人が集まり、並行して様々なサービスが提供されている。その中で、単に箱を貸すというような印象を受けるのはよくないので、何らかの工夫が必要ではないかと考えて提案した。ご一考いただきたい。(委員2)
- 個人的には「貸館」の方がわかりやすいので、このままでもよいのではないかと考えている。より一般的でわかりやすいのではないか。(委員5)
- 単に空間を貸すだけではない貸館にしたいという議論は既に本委員会内で行われてきたので、実際の運用も含めて、本管理運営計画ができたのちに、具体的な課題として検討していきたい。(委員長)
- 事務局として、貸館事業のタイトル自体より、内容として貸館は施設を単純に貸し出す「業務」ではなく、施設を提供する「事業」として捉えて展開する方向で考えていきたいので、その表現に関しては残していきたい。(事務局)
- タイトルはわかりやすくしておきながら、中身を説明する際に、これまでの貸館とは少し違うという表現を残しておきたい。(委員長)
- 17ページで事業の規模について触れている。過去の委員会でも検討したが、やはり事業の規模について、明確な目標設定をした方がよいのではないか。せめて、同規模の市の事業を目標として設定するといった、具体的なものが必要なのではないか。つまり、予算がないからできないといったことが今後起きないようにしたい。具体的な数字を書けないことは理解しているが、回数など、なんらかの目標値はあってもよいのではないか。(委員2)
- ありがとうございます。目標の設定の仕方は難しい問題で、他の都市を目標にした場合、そちらの水準が下がってきた場合に連動してしまう可能性もある。その点が過去の検討でも課題に挙がったため、表現の仕方が非常に難しい。愛媛県内は実は自主事業規模があまり大きくないため、全国的な水準を参考にしたという程度にとどまっている。(委員長)。

- ・ 13 ページに各事業の項目・種類について書かれているが、バランスも重要だが、重点課題についても位置付けるべきではないか。「普及育成」と「保存継承」を重点的に行うことについて、本委員会で確認したと認識している。(委員2)
- 17 ページでは「バランスが取れた事業計画」と書いているが、その意図は、まずは「育成」「交流」、そして「保存継承」が大事という議論を受けて、このような表現にしたと理解している。(委員長)
- 事業展開で、開館から初期の事業は「普及育成」や「保存継承」を重点的に進めることを確認したと認識している。(委員2)
- 今のご指摘について、少しお話ししたい。管理運営計画の難しさは、実際の運用に対してこの管理運営計画がどれぐらいの拘束力を持つものか、実際の事業にどれぐらいまで影響するかという点である。運営側にとって必ず守らなければならない事業計画になるのか、あるいは、基本理念として尊重する中で自由度と時代の流れを反映させた事業計画を行うかということに関わってくる。そのなかで、本検討委員会として「普及育成」と「保存継承」に重点を置きたい意向を持っている旨を付記したいというご意見かと思う。今回の提案はその点を加味するために、「事業の発展」の項目で、「バランスに配慮しながら」という文言を書き加えている。(委員長)
- 現在の表記で議論の経過が反映されていると理解しており、「バランス」にかかる部分は残しておきたい。(事務局)
- 事業の方向性に関わる部分は長期的な事業計画について考えている部分でもあるので、あまり強すぎない表現で揃え、その後の事業運営の自由度に影響のない範囲にとどめたい。12 ページの「事業の発展」の文言を再考したい。ご指摘ありがとうございます。(委員長)
- ・ 13 ページの「事業の種類」の「交流事業」の中に 21 ページの「地域交流」の項目に書かれている、「社会教育主事」が行う事業を社会教育事業として入れてほしい。「伊予・中山・双海の地域と連携した交流事業および社会教育事業」としてほしい。(委員5)
- ありがとうございます。書き加えた場合に、整合性に関しては問題ないと思われるため採用したい。(委員長)
- ・ 続いて、組織計画の検討に移りたい。(委員長)
- ・ 22 ページの運営体制について、施設運営全体の考え方の中に、市民参画と専門家の参画を書き込んでおいてほしい。市民参加に関しては別項に詳しく書かれているが、組織図の中にも書き込んでおいてほしい。また、専門的なアドバイザーの意見を館長が運営に活用できる仕組みも同様に書いておいてほしい。専門家等を加えた企画運営委員会を設置することについても本項目に書いておいてほしい。(委員2)
- ありがとうございます。(委員長)
- ・ 18 ページの「市民の参画と協働」に引用されている「伊予市第一次総合計画」については、ちょうど本検討委員会の開催時期が第一次と第二次の計画にまたがって運営された

経緯もあるが、現在は第二次総合計画の段階に入っている。そのため、26 ページにあるように、第二次総合計画の基本目標「参画協働推進都市の創造」を引用しておいた方がよいのではないか。(委員 9)

- 18 ページ目は基本計画の確認で、2015 年時点でのものなので、整合性を保つために、P18 では第一次総合計画、P26 では第二次総合計画とさせていただいた。(委員長)
- 承知した。(委員 9)
- ・ 18 ページの組織計画の 3 項目のうち、(2) と (3) の間に若干のひらきを感じる。(2) で専門性の高い運営が位置付けられた後で (3) で市民参画について述べられたときに、少し引いてしまう印象を受ける。その間に、ボランティアの育成などの表記があると、各項目がつながるのではないかと感じる。また、22 ページの組織図上で運営主体と市民の組織がきっちり分かれている印象を受ける。できれば、もう少し「市民組織」の説明の部分を縦に長くして、「図書館、文化財、地域交流・文化振興、文化財」の中にも含まれるような形で表記してもらえると、市民も主体的に参加するように受け取れるのではないかと。(委員 8)
- 重要なお指摘ありがとうございます。18 ページの「組織計画」の部分で市民参画協働ということがもっと強調されるべきではないかというご指摘かと思う。専門ボランティアを育成しながら、専門家と市民の一体性と専門性の高い組織の在り方を検討していくという順番にしたいというご発言の趣旨で相違ないかと。(委員長)
- 内容としては理解できるが、市民共同参画ということがまず大前提にあったので、その部分についてより明確に整合のとれた表現にしていきたい。(委員 8)
- 現在の体制表はあくまで案としているが、その在り方についてのご指摘をいただいた。市民組織が運営主体の枠組みの外にいるという現在の表記について、協働を前提にうまく工夫した表記にできないかというご指摘である。現在のところ、スタート時点では行政直営で管理運営を行うことになっているため、こういった表現になっているかと思う。(委員長)
- ・ 組織に関しては、専門アドバイザーを入れた企画運営会議のようなものを明記した方がよいというご指摘と、市民組織を意思決定にもある程度参画できるようなシステムを構築すべきではないかというご指摘をいただいた。(委員長)
- ・ 22 ページの運営主体の部分に関して、公民館運営審議会も一つの市民組織で、それが各地にあるので、関連性があると思われる。この部分についても加筆いただきたい。(委員 5)
- ありがとうございます。地域交流施設であっても公民館と同様に利用できるということをご議論してきたので、公民館運営審議会についても加筆を検討したい。(委員長)
- ・ 本計画書は委員会で検討した結果の案であるが、事務局とも相談の上、書き方については検討させていただきたい。現段階で決定にいたる判断はできないので、事務局と相談

の上、ご意見を反映させていただきたい。(委員長)

- ・ 皆さんに見ていただいた事例の補足をしたい。茅野市の事例では、開館前の組織の立ち上げ時に、40人～50人程度が参加する大きな委員会があった。その中ですべてを動かしていくという当時の市長の方針があり、実際の開館に合わせた組織の改定の際には、企画検討委員会と運営協議会という二つの組織に分かれることとした。運営協議会は意思決定をするわけではなくチェック機関として機能し、企画検討委員会が実際に行う企画の検討・提案等を行っていた。運営協議会は年に1回か2回しか開催されない。その際に行われることは、年間の事業実施状況等の報告で、それをチェックするのが会議の趣旨である。例えば、そういった会議を通して出た意見を反映して、この施設がこのまちにとってどのようにあるべきかを早急に決めていかなければならないが、そういった市民の意見の反映の仕方について、様々なご意見をいただいた。それぞれの考え方の良い点を活かしていきたい。(委員長)
- ・ 体制図を見ると縦割りの印象を受けてしまう。各部署バラバラに準備を進めながら、職員も業務に追われている。そうした場合、最終形も縦割りになってしまうことを懸念している。今回の計画書では、各部門が一体的に運営を行うことを大きな目標として掲げている。初めての取り組みではないだろうか。一体的な運営のエンジンになるような専門的な部署をきちんと位置付けるべきではないか。(委員2)
- 委員2のご意見と近いと思うが、22ページの運営体制図の中で、館長の下から3つの部門に枝分かれしているところに、「市民」と「専門家」が並列になるように配置された組織図が望ましいのではないか。(委員1)
- これまでの各委員のご意見は、専門家が引っ張ってほしいというご意見と、市民が前面に出ながらそれを取りまとめる人がほしいという意見に分かれている印象を受ける。(委員長)
- ご指摘の通りかと思うが、市民の目線で検討しているので、どちらも趣旨は同じではないかと思う。(委員8)
- ありがとうございます。この点は本委員会の議論を受けて実際の決定に至る際の大きな課題になる部分である。実際の運営において、誰がどのようにリーダーシップを取るのか、あるいは合議制のシステムを構築するののかといったことは、非常に大きな課題になる。今の段階からそのことを各委員に知っていただけておく必要があった内容でもある。各委員にご確認いただけて良かったのと同時に、合意に達することができず申し訳ない。(委員長)
- ・ 28ページに書かれているが、施設側が用意する市民参加の枠に参加するのも市民参加だが、例えば、「いよカフェ」の参加というのも、この施設に重要な運営への参画で、どういう運営形態を目指すのかも書き加える必要があるのではないか。また、評価について、おそらく評価委員会のような組織を立ち上げるのではないかと思うが、それもすべて市民が参画できる仕組みとしたい。(委員2)

- 運営体制のところを書いていないか。(委員長)
- 例として入れるのであれば入れてほしい。どこかに表記があるか。(委員2)
- 運営体制は組織に関わる部分なので、43 ページ「その他」のところの評価委員会等を書き加えたい。(委員長)
 - ・ 先ほどのいよカフェについてはどうか。(委員2)
- カフェがうまくいっている施設はにぎわっているのが、重要なポイントかと思うが、実際はカフェの運営に失敗している例も多い。そこを市民の力で運営する場合、厳しい評価も伴う。(委員長)
 - ・ 28 ページの「市民参画計画」の「今後の計画」の部分について。サポーターズルームが施設の中にあった。その部分について、以前の第一次案ではサポーター組織の事務所についての記述があったように記憶している。削除されていないか。(委員2)
- 削除はしていないので、今後の展開の冒頭部分が該当するのではないか。(委員長)
- あったと記憶しているがなくなっている。以前の案では他市での研修等を計画的・段階的に実施していくという記述があったと思うが、抜けていないか。関連して、市民サポーター組織とサポーターズルームについて、今後検討を行うことを追記してはどうか。(委員2)
- ありがとうございます。市民参画の例としてサポーターズルームの運営の可能性もある。重要な部分なので、残すように検討したい。(委員長)
- 以前のA案の33ページの中の「今後の展開」のところに市民サポーター組織に関する記述がある。(委員2)
- カタカナ表記をやめるようにという検討を通して、「市民組織」に表記が変わっている。(委員1)
- 事務局から申し上げたい。「サポーター」というのはある種定着した言葉でもある。また、ボランティアとサポーターの位置づけも今後明確にしていかなければならないという課題もある。そういった点に関して具体的なイメージがあればお聞かせ願いたい。(事務局)
- 建設計画の「施設計画」の中に「サポーター部門」として明示されている項目があるが、その名前が確定したわけではない。(委員2)
- ボランティアはどちらかというと責任を取らない形で参画する。サポーターは責任を取る形で参画する。有償である分、責任も発生する。ボランティアはあくまで館の意思決定に従ってお手伝いをし、サポーターはもう少し踏み込んで活動を行うということで整理されている。「サポーター」というのは、Jリーグができてから普及した言葉で、それまではほぼ存在していなかった言葉だと思う。外で見ている人や応援している人も、サッカーで言えばなくてはならない人たちだという考え方になる中で使われるようになった。(委員長)
 - ・ 続いて、広報宣伝計画に関わる部分についてご確認いただきたい。(委員長)

- ・ 愛称の募集について。特に文化ホールについてだが、小さいとはいえどもホールなので、ネーミングライツの取得者を公募して出資をしてもらうという方法も一つの案ではないか。市民から募集するのも一つの案としてよいが、企業を対象に加えてもよいのではないか。規模が大きくないので、企業が興味を示す可能性が低いかもしれないが、一つの案として検討したい。(委員9)
- ありがとうございます。過去の検討の中で、施設全体の名称に関しては市民の思い入れが込められた名前がいいということで、比較的若い方から「いよかん」という名前が出て、熱い支持を集めたワークショップがあった。今、それとはまた別に例えばホールだけでもネーミングライツでお金をいただけるような方法を取ってはどうかというご提案をいただいた。実際、ネーミングライツで命名権を売却している施設はたくさんある。大分県民ホールは「iichiko グランシアター」が名称になっている。また、稼働率が高い例では、兵庫県立芸術文化センターがある。各ホールがネーミングライツを売却していて、一番小さいホールは神戸女学院小ホールになっている。大ホールはKOBELCO 大ホール。昔の神戸製鋼である現・コベルコが地元を拠点にしているためである。中ホールは同じく地元を拠点とする阪急が名称を取得し阪急中ホールとなっている。それぞれネーミングライツの売却に際しては一千万円単位の金額で公募を行っている。ひめぎんホールに関しても当初の契約は二千万円台だそうなので、検討材料としては十分な資料がそろっており、以前はネーミングライツ等の資金獲得も検討するという一言をいれていた。今後、市民からも様々な反応が出てくると思われる。その際に改めて議論をし、資金確保が必要だという結論に達した場合には行っていくこととしたい。(委員長)
- ・ 資金集めに関して言えば、建設や備品購入に市民が関わるという方法もあると思う。例えば、椅子の各席に寄付者の名前を入れるとか、ピアノの寄贈を募るとか、そういった方法も考えられるのではないか。(委員2)
- 様々な資金獲得の方法について、アイデアをいただいた。ありがとうございました。(委員長)
- ・ 今回の配布資料の目次のページ数と実際のページ数にずれがある。(委員5)
- 今回配布の目次が一次案のままになっていた、大変失礼いたしました。ご指摘ありがとうございました。(委員長)
- ・ 次の検討に進みたい。利用規則についてご意見を伺いたい。この項目についての大きな懸案事項としては、「連続利用の上限」と「利用者登録」の二点がある。利用者登録の問題について本委員会では意見が分かれたため、あえて明記しなかった。また、連続利用の上限に関しては議論を行っていない。この点は実際の運営が始まる前に非常に大きな懸案事項になるが、もう少し後で検討を行い、細則を定める時点で決定するように検討している。それ以外の点については、皆さんにいただいたご意見を基に手直しをさせていただいた。(委員長)

- 第5回、第6回の検討委員会の議論を通して、35ページに減免の基準についてまとめていただいた。この但し書きで「施設の目的に照らし、公益上特に必要があると市長が認めた場合には減額及び免除の対象とします」とある。続けて、「減額及び免除対象となるも催物を明確にし、それによって公平性及び平等性を担保するよう規則を定めま
- す」と書かれている。第5回の検討委員会で、市から依頼を受けて自治会が行う事業については免除するという
- ことで個人的には了解したが、ここに、「市長が認めた場合および市から依頼を受けた自治会が行う事業」を付け加えていただきたい。根拠としては、計画当初、公民館と図書館と文化ホールの複合施設を作るということだったが、その後市の意向で公民館ではなく地域交流施設に位置付けられたことが挙げられる。位置づけが変わった際に、市長に指摘したが、その際の回答は「従来通り利用できるということで、位置づけの変更を了承してほしい」とのことだった。そのため、我々は従来通り利用できるという認識を得ている。例えば、自主防災等の会議について我々が自主的に料金を負担するという認識はない。市からの依頼を受けて行う事業については検討するという旨、第5回、第6回の検討委員会で議論しているので、その点もここに加えておいてほしい。(委員5)
- ありがとうございます。ご意見を決して反映しなかったわけではなく、ご指摘の内容は今回の資料の「市長が認めた場合」に含むという趣旨であった。ただ、その点について、過去の議論を反映させる形で明記してほしいというご要望である。事務局と検討させていただきます。(委員長)
- 問題になるのは、「公益性が高い」「公益上特に必要がある」といったものをどういった基準で市が認めたかが不透明な場合と思われる。文言の問題として言えば、透明性を確保するという
- ことでも、利用者登録を行うということで補えるのではないか。減免に際し、優先順位があつてはならない。そのため、利用者登録制度を行うことで、公益的団体なのかどうか
- が明確になれば説明しやすいのではないか。利用者登録の件と減免の考え方はセットにして考えられないか。(委員2)
- 現在の「公益上特に必要があると市長が認めた場合」という表記では、市長の私心が介在するような印象を受けてしまう。そのため、明確な位置づけが必要なのではないか。透明性を担保すべきである。(委員8)
- 本資料中の「市長が認めた」という内容は、公的に認めたことを意味するもので、私的なことは意味しない。また、個別の案件を本計画に反映していくのは相応しくない。現在の表記で十分趣旨は反映されているのではないか。(委員9)
- 「認めた場合」でよいのではないか。「市長が認めた場合」といった主体が必要か。(委員8)
- 市長というのは公人であり、個人ではない。そのため、実際は市が認めた場合と同等の意味を成す。市という組織の代表として市長の役職が記されている。これは、ご指摘を受けた市から委託を受けている事業の減免とも関連する事項なので、書き方を検討さ

せていただきたい。(委員長)

- 先ほど指摘した事項は、市からの依頼を受けて自治会が行う事業という非常に単純なものである。(委員5)
- 市から依頼を受けるということは、市の委託を受けて行うものであり、市の主催事業にもあたるので、「市の主催事業及び」と書き加えた方がよいかもしれない。また、「透明性」という部分もさらに明確に位置付ける必要があるかもしれない。(委員長)
- 既に「公平性」「平等性」が書かれている。そこに「透明性」も加えたらよいのではないか。(委員2)
- 免除・減免の対象の点については議論が行われている。利用登録についても議論を行ったが、全市で統一したルールを作り、さらに簡素化が必要になる。全市で統一すると、本計画書で先行して書くことはできない部分がある。開館まで少し時間があるが、簡単な利用者登録の方法は検討可能である。(委員長)
- 利用者登録について、すべて登録可能にするのではなく、目的に応じて登録する方法を検討すべきである。(委員9)
- 利用者登録はあくまで登録時に連絡先や団体の概要を書くだけで、行う事業によって公益性があるかどうかを判断する。(委員長)
- 登録の時点であればすべて受け入れて良いのか。(委員9)
- 行われる事業で利用の可否を判断する。(委員長)
- 構成として、市内市外の団体が選別される。また、誰から見ても政治・宗教に関連する団体は否とすることもできるのではないか。(委員2)
- 実際に開館すると、活発に利用されるようになり、想定していなかった団体から利用の申し込みを受ける場合がある。極端な営利目的で無理なスケジュールでの予約申請を受ける場合や、違法な商法を行っている団体からの利用申請などを受ける場合がある。そういったものをある程度選別できる部分かもしれない。(委員長)
- ・ 「危機管理・安全対策」については運営上重要ではあるが、本委員会では議論を行っていない部分なので、省略したい。(委員長)
- ・ 「収支計画」については、いままでのご意見をできるだけ反映できるように文言を修正した。(委員長)
- 「収支計画の考え方」の項に「創意工夫により経費の節減及び質の向上のバランスを保つ」とあるが、今回の収支は市の予算も収入の中に含まれており、我々市民もある意味運営にすでに貢献している。それで収支を見る必要があるのではないか。収支項目も単に維持管理や事業のみではなく、当然バランスを取ることは困難である。(委員2)
- 本項目で書かれている「バランス」は民間企業のように、収支が人件費等も含めてプラスマイナスゼロになるという意味ではない。委託業者からも委員会で指摘があった通り、活発に使われれば使われるほど、館の支出の増大につながる。また、長い目で見ると、保守管理等の費用は年々支出が増大するという指摘もあった。ここで使われている

「バランス」という文言はあくまで無駄なお金は使わず、必要なお金は使うという意味で使用している。それもあり、最初の何年かは直営で確認をしたい意向である。(委員長)

- ・ 直営についてだが、伊予市にはほとんど予算がないと思われる。管理運営がスムーズにできない恐れがあるので、できるだけ早く円滑に運営できそうなところにお任せした方がよいのではないか。公務員が運営すると、人件費が高つく。そういったところも含めて効率的に運営できるノウハウのある所に早くから任せる方がよいのではないか。(委員9)
- そういった議論もあるが、以降の展開としては「経費の節減と質の向上」という点にご意見として反映させていただく。また、以前にも指定管理者制度を導入したからと言って必ずしも経費が安くなるわけではないことをご説明していることを確認したい。過去に出た議論は文化施設に関してではないので、そういった事例も検討しながら、今後どのような運営方法を採用するのが望ましいかを決定するまでお時間をいただきたいというご報告を以前に申し上げている。(委員長)
- 直営の場合、当然職員給与は市から支給される。図書館部分に関してもそうである。そのため、市の予算の部分は収入項目に入っていない。収支構造を説明するのであれば、きちんと市の予算を項目として入れていなければおかしいのではないか。民間の場合はこれでもよいが、直営で考える場合には問題があるのではないか。(委員2)
- 本計画書は運営検討委員会で原案を作成したことになるため、この収支の部分はあくまで市の収支のことであり、市の予算は収入にはならない。(事務局)
- しかし、最終的には市が作成したことになる。(委員2)
- 我々は管理運営計画の案を市に報告することになるが、最終的には市が作るもののお手伝いをしているという状況であることを確認しておきたい。ちなみに、市の予算は年度によって大きく異なる。例えば、他館の事例で、貸館料金収入相当額を翌年度の自主事業費に充ててよいという前提のもと運営をスタートして、貸す側も借りる側も頑張っていたが、国の構造改革の影響を受けて国から市への補助金が減る中で、館の運営にも影響が出るようになった。「市民にとってこれが必要なので、それに対して予算をください」ということを明確に言い続けなければならない。近年、文化施設の事業予算が大幅にカットされている事例が非常に増えている。ほぼゼロの場合もある。そういった状況になった場合には、運営できない状況に等しくなる。まずは自主事業の予算をきちんと確保することを位置づけ、なおかつ経費節減に努めるということを市民の目線から提案していただくことが重要である。(委員長)
- 建設費用は目途が立っているものの、当初よりもかなり膨らんだと聞いている。ただ、建設後の運営に国の補助はない。その分を補てんする方法を考えなければならないのではないか。(委員9)
- その点についてもすでに本計画書内に書かれているが、資金獲得に関しては助成金等

を活用して自主事業に充てることを位置付けている。たとえ小さな町でも活発に運営を行っているところは、約2千万円程度の補助金を獲得している例がある。また、その資金獲得のためには専門的な職員が必要というジレンマもある。以前にもお話ししたが、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」にのっとって運営を行っている館は、きちんとスタッフがいるか、きちんと運営が行われているかというチェックが入るシステムになっている。ただ、それに則った運営を行っていれば、多くの補助金が得られる。このように、館がどの方向を目指すかという指針も今後開館までにきちんと作る必要がある。今回は、現段階で書き込める範囲のことを整理して書き込んでいる。(委員長)

- ・ 市民が主体となって積極的に運営を盛り上げるための広報であったり、今の進捗状況を市民の皆さんに広報したりするのが私たちにできることの限度。また、それを後押ししていただくか、市全体の動きとして市民への協力要請が必要ではないか。「予算がなくなってしまったから運営が立ち行かない」という状況ではなく、少ない予算の中で前向きに市民全体を盛り上げるような手段を考えることが私たちの仕事ではないか。実際には私たちだけで出来る事ではないので、市の力を借りながら取り組めばよいのではないか。予算に関する議論で危機感に関わる部分ばかりを取り上げると「お金がないのであれば中止すべきだ」という声に繋がってしまわないか。「みんなの力でこうするんだ」ということを位置付けることが重要である。(委員8)
- 心強いご発言をいただきありがとうございます。広報等に関して検討はしたものの、実際にはまだ活動が開始できていないので、施設の名前を決めるところ等から始めたい。確かに市の財政は難しい状況にあるが、市民にできることから盛り上げていくという方法も十分あり得る。かつて、市では千人規模のホールを郊外に計画していたが、議論する中で、まちなかに賑わいを創出するために現在の位置で計画をやり直した経緯がある。当初の計画からすると、建設費用の想定は半額以下になっている。その中で、より使いやすく、活発に利用される施設を目指して検討してきた。その点を改めて皆さんに知っていただく活動をしていく必要がある。(委員長)
- ・ 私の居住地は郊外になるが、地域の活動の中で周囲に声掛けをしても、あまり伝わらない。当初の計画地から今回の計画地に変更になって以降のことが知られていない。もう少し知ってもらえたらと思う。(委員8)
- ありがとうございます。広報に関して、今回の計画に盛り込みにくいので、今後の課題としてご意見を承っておきたい。(委員長)
- ・ 残り時間がわずかになってきたが、その他の項目等についてご意見を伺いたい。(委員長)
- ・ 建設から開館に向けての過程の中で、様々な形での市民参画を徹底していく必要があるのではないかと。長い間かけて検討を行い、夢も膨らませてきたので、参加する仲間を増やしながら進めていく具体的な方法を検討すべきである。(委員2)
- 14 ページ「プレイベント」のところに書き込んだ方がよいか。それとも、議論がまだ

- 深まっていないので、最後に市民参加という項目を設けた方がよいか。(委員長)
- 後者の方がよい。(委員 2)
- 独立した項目を建てるのは難しいので、「事業の位置づけ」の中で述べた方がより良いと思われる。(委員長)
- ・ スケジュールについて、解体工事が平成 30 年 10 月に完了し、本体工事が 31 年 5 月に完成し、7 月に開館する計画になっている。心配な点として、用地取得がスケジュール通りに完了するのか。このスケジュールには取得にかかる期間が見込まれているのか。(委員 5)
- 見込まれていない。(委員長)
- 現在の進捗状況をお尋ねしたい。(委員 5)
- 鋭意取り組んでいるとしか申し上げられない。(事務局)
- 用地に関しては本委員会の検討事項ではないので割愛したい。(委員長)
- ・ 44 ページの「いよカフェ」についてお尋ねしたい。これは自動販売機を置いてスペースのみを提供するのか、それとも軽食や喫茶を提供するカフェスペースを設けるのか。後者だとすると、直営ではできないのではないか。具体的なイメージがわからない。(委員 9)
- 検討委員会では当初、自動販売機だけのスペースにはしないという意見が挙がった。例えば、伊予市内にもいくつかケータリングでカフェをやってくれるところがあり、ほかにも福祉施設の方が就労支援といった形で運営されているところもある。調理は伴わない手法で運営することを検討してはどうかという議論が主流だった。(委員長)
- 調理が伴わなくても、コーヒーを作るだけでも飲食店営業行為ではないか。(委員 9)
- そういった点は専門の方に確認しなければわからない。(事務局)
- 運営イメージは理解できた。(委員 9)
- つまり、市民が集いながら、様々な人たちがそこで働いている状況を作りたい。あるいは、チャレンジショップにしてもよいのではないかという議論も出ている。(委員長)
- ・ 本日、ご発言いただいている方にも是非ご発言いただきたい。(委員長)
 - ・ いよカフェは本施設にとって重要な機能になるはずだが、本計画書では全く具体的なイメージが湧かない。また、運用についても重要だが、調理機能を持たないのはよくないのではないか。近隣にコンビニエンスストア等がある中で、同様の品物が売られているだけだとしたら魅力がないという話題は過去にワークショップでも挙がっている。今後 2 年の間で本計画をどこまでよいものにできるか、今後の重要だと考えている。(委員 3)
- ありがとうございます。2 年間ご苦勞をおかけしましたが、ようやく前に進めると思っていたら幸いです。(委員長)
- ・ 13 ページに関して先ほど指摘があった点について確認したい。「伊予・中山・双海の地域と連携した交流事業および社会教育事業」としてほしいといった指摘があった。これ

は、「伊予・中山・双海の地域と連携した社会教育事業」ということか、それとも、交流事業と別に、「社会教育事業」という別項目をたてるということか。(委員4)

→ 交流事業の中に社会教育事業を組み込んでどうかという提案である。(委員5)

→ あくまで、交流事業の中に位置付ける。(委員長)

→ 文言が「社会教育などを含めた交流事業」といったものになるということで理解した。また、もう一点。終わった後ならいくらでも批判できるが、今回はみんながこれだけ検討委員会を行い、行政も含めて意見を交わした。こういったことも含めて、まちを盛り上げる施設になるように、今後も検討していけたらと思う。非常によい勉強になった。

(委員4)

→ ありがとうございます。非常に大切な発言をいただいた。こういった検討委員会は当初のみ盛り上がって、その後トーンダウンしてしまう場合もある。しかし、検討委員会事態も、今後施設ができたときに喜ばれ、活用されるために行っている。皆さんからの発言をこれから頑張ろうという意思のあらわれとして真摯に受け止めていきたい。(委員長)

・ 最近になって参加したので、ここ2、3か月の間に素案を見るまで分からないことも多かった。私自身は双海に在住しているが、この計画が市全体の中でどれぐらいの範囲の方に周知されているかを危惧している。郊外等も含め、市民全体に周知することが重要で、その発信母体にこの委員会そのものになることも重要ではないかと思う。(委員6)

→ ありがとうございます。これまでも事例で紹介してきた茅野市民館は、駅と一体化した形になっている。計画段階でも愛称の公募等を通して、様々な形で広報活動を行ってきた。様々な人が利用する駅に近接し、広報活動も行ったにも関わらず、建物ができたところで「あれは何？」という声があったと聞いた。計画に携わった方は非常にショックを受けたと聞いている。それだけ事前に広報活動を行っても浸透しない場合がある。委員の皆さんにも行政の皆さんにもお願いしたいのだが、広報活動が重要だということに理解を求める事、そして、皆さん自身も広報活動に参画していただくことをお願いしていきたい。(委員長)

・ 予定地周辺を歩く機会が多いのだが、囲いがなくなり、更地になったのを見たほかの方が「ここに何ができるの？」とおっしゃっていた。何ができるのか説明したが、「ではなぜここにできるのか？」といった議論になった。そのため、なぜこの立地が選ばれたかを説明したが、その際「駐車場もない不便な場所をなぜ選んだのか」という意見がきかれた。各委員からご意見があったように、まだまだ知られていないのだなと実感したことと、最近の利用規則等の細かな検討を行っていたため忘れがちになっていたが、まちなかにつくる意義や、市民が盛り上げていくという基本的なことを周知していかなければならないと再認識した。(委員9)

→ 検討の進行方法の問題もあったかと思う。ご指摘ありがとうございます。(委員長)

・ こういった大型公共施設は計画段階はリアルな検討を進めて、段階が進むと「お金がな

い」といった議論が生まれることが往々にしてある。運営の手法など、これからまだまだ検討が必要かと思うが、市民力の有無も重要な要素だと思う。市民として私たちに何ができるか、どこまでできるかわからないが、「これが伊予市の市民力だ」といえるところまでやりたいという感想を持った。(委員7)

- 本委員会は計画策定以前にもう一度開催する予定で、その時にはぜひその議論を行いたい。(委員長)
- 本日皆さんからいただいた意見をまずはまとめ、関係する各部署とも協議した上で、完成形に近い計画書案をご提示したい。(事務局)
 - ・ 多くの市民が知らない部分がたくさんあるように思われる。市報の特集号等で取り上げる等の方法を検討していただきたい。(委員5)
- 前段階の委員会で、計画書ができた段階で発表のフォーラムを行うことを計画していた。市民に関心を持ってもらうためにも、当初の計画通りフォーラムを行ってはどうか。(委員2)
- 次回の最終確認をフォーラムの意味も込めたものとして行うのはどうか。建設に関することと、計画の確認を行うということではどうか。(委員長)
- すべての意見が最終形に反映されているならいいが、必ずしもそうではないので、そういった意見をフォーラムの中で入れてくれるのであればフォーラムを行うのがよいのではないか。(委員5)
- 管理運営計画委員の検討委員会の案として皆さんにご提示して、外部の専門家を招いたフォーラムを行うというよりは、委員の中で指名をさせていただき、「検討段階でこんな苦労があった、こんな議論があった」というお話をさせていただきながらご紹介をするという会を公開で行いたい。市民が傍聴可能な公開最終検討委員会として、検討委員会の規則にのっとった形でフォーラムを一度行うことで本委員会を締めさせていただくということではよろしいか。(委員長)
- 了承した。(委員5)
 - ・ ありがとうございます。全国的に見ても、こんなにきちんと議論をして管理運営計画を決めているところは多くない。一緒に議論させていただいたことを光栄に思う。今後この施設の計画及び完成後の運営が、まちを導くちからになれるように、私自身も微力ながら引き続き協力させていただきたい。ありがとうございます。(委員長)

3. 閉会

- ・ 閉会の言葉 (事務局)

以 上